馬鹿メドレー（mikky、味噌ラーメン、紅月迅、マカロニ）

馬鹿四人組

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
馬鹿メドレー（ｍｉｋｋｙ、味噌ラーメン、紅月迅、マカロニ）

【Ｎコード】
Ｎ６７０５Ｐ

【作者名】
馬鹿四人組

【あらすじ】
四人の作者（馬鹿）が折り出す馬鹿ラブコメディー
それしかいえないです。はい。
感想その他諸々はなるべく下さい。

あり得ないプロローグ

あり得ないプロローグ
キャラ紹介
主人公　リット・ウェーバー　転校生　年齢１４
主人公の友達　採盗狂也　悪友　年齢１４
ヒロイン　凍空雷華　始めに主人公リット・ウェーバーに話しかけた女の子　年齢１４
ヒロインの友達　佐藤睦美　天然娘　年齢１４

学校名
京蘭中学校
まぁまぁ広い中学校
学校行事に力を入れている

近隣の観光スポット
そこそこ有名。
だかほんとにそこそこな人気。

地域環境
まぁ安全
それなりのレジャースポットがある

この小説自体の説明
ｍｉｋｋｙ、味噌ラーメン、紅月迅、マカロニが出会い馬鹿っぽいことを始めた結果こんな小説を書くことになった。
ラブコメにしたい・・・うん。したい

参戦作品

とある囚人の能力吸収
とある殺し屋の多重能力者
日常ライフ！！
Ｇｒｅｅｎ　Ｆｉｒｅ
学園ｖｓ高校　超能力バトル

こんなカオスな作品だけれど飽きずに最後まで見てくれるとうれしいです。

文　紅月迅

あり得ないプロローグ（後書き）

はい。今回は紅月迅が書きました。
ゑ？馬鹿すぎ？当たり前です。
カオスで馬鹿すぎるけど最後まで見てください。
それぞれが書いた作品も読んでくれるとありがたいです。
次回はｍｉｋｋｙ（期待度大）が書きます。
さてがんばってもらいますかね。

第1話（前書き）

絶賛キャラ崩壊中です。

第1話

俺はリット・ウェーバー、この学校、京蘭中に二年生としてロンドンから転校してきた（まぁフレイム・・・何でもないッス）
今は一ヶ月位たって五月上旬であるクラスにはそこそこ慣れていた
人と言うのは自分の知らない物や人に興味を持つもので、実際俺が
初めてクラスに入った時クラス全員に囲まれたが二日後には飽きた
のか全く寄らなくなっていたのだが、
採盗狂也、凍空雷華、佐藤睦美だけは毎日挨拶してきたのだ
そして今日も
「よう！リット」
「おはよう、リットくん」
狂也、雷華の順で挨拶が飛んできた
その後すぐ睦美も
「オッハーリット～」
相変わらず歯切れの悪い言葉で言う
「おはよう」
一ヶ月でこれだ、初めてのときは何も言えなかった
「全く反応薄いなー、リットー」
狂也が毎度の事を言う
「そうだよー、もっとウチみたいにオッハーて言いなよ」
天然丸出しで言う
「それはやりすぎだよ。ねぇ？」
話振られて黙って頷く俺
「だからそれがだめなんだよ」
狂也がもっともな事を言う
雷華が小さく笑うのを俺が見てすぐ担任の声が飛ぶ
「ほらー朝読だぞ座れー」
クラス全員が喋りながら席に座る

第1話（後書き）

今回はマカロニが書きました。次回はｍｉｋｋｙが書く予定です。

第2話（前書き）

今回は、ｍｉｋｋｙのターンです。本当に馬鹿です、ではどうぞ

第2話

授業が終わり放課後・・・

リットたち四人は京欄中学の近くにあるコンビニにいる。
リットはレジにならんでメロンパンを買おうとしている、狂也は雑誌「ファ〇通」を読んでいる、雷華と睦美は、狂也のいる雑誌売り場の近くにあるスイーツの置いてあるところで「ロールケーキかプリンどちらがおいしいか」で悩んでいた。

十分後・・・

結局、雷華と睦美はパンコーナーに売っていた菓子パンを買い食べている。リットはメロンパンのほかに「午〇の紅茶」のレモンティーを買った。狂也は読んでいた雑誌とコーヒーを買い四人で歩いていた

「そういえば、リットってメロンパン好きなの？」
「いや・・・別にそんなんでもない」
「へ～そうなんだ」

メロンパンを食べているリットに睦美が話しかけた。そんな話をしていた二人の先を歩いていた狂也と雷華は・・・

「ねぇ狂也って・・・どんなタイプの・・・人が・・・好き？」

「・・・なんか言ったか」

雷華は顔が赤くなって下を向いている。

「顔、赤いぞ熱でもあるんじゃないか？」

「えっ・・・・・・」

狂也が聞いた瞬間・・・

「ちょっと二人ともきいてよ～」

声のする方を向くとそこには、頬を膨らませた睦美がいた。

「今の話聞いてた二人とも」

「わっ悪い気づかなかった」

「ごめんね、睦美」

こんな話をしながらそれぞれの家に帰っていった。

第2話（後書き）

どうでしたか？ｍｉｋｋｙとはこんな駄目な人です。狂也の性格は本編（アビリティドレイン）ではあまり出してませんのでここで暴走しそうです。次は紅月迅です、彼はどんな世界を見せてくれるのか。乞うご期待！！

第三話（前書き）

どうも紅月です。
今回は自分が書かせていただきましたけれど・・・正直大変ですね。
まぁ飽きずに見ていってください。

第三話

「ふ～終わった」

今は夜十時ぐらいです。
私はいつも夜に勉強することを日課としているのです。

「にしても今日は・・・・・・／／／／／／」

今日あったことを思い出す。
リット君達と学校で話して帰りには睦美ちゃんとロールケーキとプリンについて熱く語ったりその帰りには・・・・・・狂也君に・・・／／／

「私何してたんだろ・・・／／／」

私は帰りに狂也君になんかすごいことを聞いちゃったことを思い出す。
深くは思い出さない。恥ずかしくなるから／／／

「それでも狂也君は何も思わなかったみたいだし・・・」

と言って私はいつもの日常を思う。
みんなで笑って過ごせる今の日常を。

「私が引っ越して一年か・・・」

もう引っ越さないとお母さんは言っていたけれどそれでも不安になる。

友達と呼べるくらいに仲良くなったころには引越し。そんなことが多くあった。

「この普段がいつまでも続きますように・・・」

と祈ってみる。祈るのは前に近くに神社があったとこに引っ越した癖。

そんな中

「雷華～ご飯よ～」

とお母さんが呼んでいるのを気付きお母さんのとこに行く。

『この日常がずっと続きますように』

と祈って

第三話（後書き）

こんな感じの内容になってしまいましたけどどうでしたか？
こんな感じでいつも書けたらいいなと思ったり思ったり。
「学校と対異師と先祖様？」
とかいうのも新しく書きました。たぶん
これに続いて是非見ていただければ幸いです。
そしてこのメドレーのチームで新しいのを書ければいいなと思います。
ちょっ・・・ｍｉｋｋｙさん何してるの？
そんなみんなですが是非続きも読んでください。
これでうまくｘられたかな？
え・・・次回は味噌です。俺は知らん。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6705p/

馬鹿メドレー（mikky、味噌ラーメン、紅月迅、マカロニ）

2011年10月8日03時52分発行